

広島県移住史海外調査報告

安 藤 福 平

一 調査の概要

筆者は昨年『広島県移住史』の資料収集のため、二度にわたり海外で資料調査を行った。『広島県移住史』は、「全国で最も多くの移住者を送り出した広島県として、移住の歴史的概要を正確にかつ体系的にとどめ、後世に伝えるため」広島県が刊行するもので、通史編・資料編各一冊からなり、平成二年度（一九九一年三月）発刊の予定である。資料調査は、県内では市町村役場文書・移民関係者、県外では国立国会図書館・外務省外交史料館等を中心に行い、海外調査は北米・南米・オーストラリアを対象に実施した。海外調査のうち、南米は天野卓郎氏（広島県移住史編集委員・広島女子大学教授）によりブラジル・パラグアイ・ペルーの三か国の調査が行われ、オーストラリアは千田武志氏（広島県移住史執筆者・呉市史編纂室主査）により呉市史編纂資料調査と兼ねて実施された。そして、北米は筆者が二度にわたり資料調査を行った。本稿では、筆者が行った北米への資料調査について報告する。

第一回の資料調査では表1のとおり、アメリカ合衆国の五都市を訪れた。主な調査対象は、ワシントン大学・カリフォルニア大学ロスアンゼルス校・ハワイ大学等の図書館を初めとする資料所蔵機関、各地の邦字新聞社および各地県人会であった。調査箇所の選定にあたっては、移民資料の収集ではわれわれの先輩格にあたる広島市文化課の方々の助言を参考にした。ただ、同課の場合は博物館資料の収集が中心であったが、われわれの場合は文献資料中心で、しかも、移住史編纂という目的からすれば、コピーを持ち帰ることだけでも十分有意義であると考えたので、調査日程が制約されていることも考慮して、資料所蔵機関に重点を置くことにした。

資料所蔵機関には、資料の所在状況の把握と収集（マイクロ化）資料の選別を目的に訪れた。資料所蔵状況に関する情報を事前に入手していたので、期待していた資料をほぼ期待どおり（といっても、在米日本人関係資料に関してはほとんど無知であった筆者にとっては、想像以上のものではあったが）に見ることができたといつてよい。

各地邦字新聞社および各地県人会へは、資料収集および今後の資料収集のネットワーク作りの目的で訪れた。邦字新聞社は小なりとはいえ、現地日系社会の情報センターとも言うべき役割を担

表1 第1回調査日程表

日程・都市名	調査機関名
2月19日午後大阪→2月19日朝シアトル	
2月19日（日）～22日（水） シアトル	シアトル広島クラブ 北米報知新聞社 ワシントン大学
2月23日（木）～25日（土） サンフランシスコ	加州東銀日米資料室 日系研究図書館 日米時事新聞社 北米毎日新聞社 桑港広島日系人会
2月26日（日）～3月2日（木） ロスアンゼルス	加州毎日新聞社 南加広島県人会 羅府新報社 カリフォルニア大学ロスアンゼルス校
3月3日（金）～8日（水） ホノルル	ホノルル広島県人会 ハワイ報知新聞社 ハワイ大学 ビショップ博物館 ハワイ州立文書館
3月9日（木）～10日（金） ヒロ	日本人移民資料館 ハワイ島広島県人会 ライマン博物館
3月11日午前ホノルル→3月12日夕大阪	

表2 第2回調査日程表

日程・都市名	調査機関名
9月28日昼大阪→9月28日朝バンクーバー	
9月28日（木）～30日（土） バンクーバー	ブリティッシュ・コロンビア大学 バンクーバー広島クラブ
10月1日（日）～4日（水） シアトル	ワシントン大学
10月5日（木）～8日（日） ロスアンゼルス	カリフォルニア大学ロスアンゼルス校 南加広島県人会
10月8日午前ロスアンゼルス→10月9日夕大阪	

っているだけに、その資料所蔵状況に大きな関心があったが、日米戦争期、事業を中止させられたという事情もあり、残念ながら期待ほどには資料は保存されていなかった。それでも、図書をコピーさせていただいたり、複数部ある図書を寄贈していただいたりすることができた。お会いした県人会の会員の方々も、文献資料を持っておられた方はきわめて少数であった。そもそも日本語文献が少ないということに加え、米国西海岸の場合、強制収容の時期に資料が散逸したと考えられる。また、世代交代で日本語の読めない世代が日系人の中心となってきたおり、個人が所蔵している資料の散逸は、今後ますます進むことが憂慮される。ただ、移住史の視点から見ても貴重な写真を持っている方々は少なくない。今回各地県人会を通じて収集したものに例をとれば、日本人移民が経営していたホテル・商店、広島県人会の行事（ピクニック・弁論大会等）に関するもの等の写真がそれにあたる。

第二回の資料調査は、第一回の継続調査として、資料を大量に所蔵するワシントン大学（UW）・カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（UCLA）、それに前回未調査のカナダを含めて表2のように実施した。この調査では、収集資料の最終的選別を行い、マイクロ化の手続きをとった。

二 各所蔵機関の概要

ブリティッシュ・コロンビア大学図書館スペシャル・コレクション（SPECIAL COLLECTIONS / LIBRARY / UNIVERSITY OF BRITISH COLUMBIA）ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）のキャンパスは驚くほど広い。図書館はそのほぼ中心に位置しており、その一隅にスペシャル・コレクションがある。スペシャル・コレクションは大学文書館を兼ねた施設で、日系カナダ人に関する文書資料はここに集中されている。広島県移住史執筆者桑井輝子氏の「ご好意により、資料目録（AN INVENTORY OF THE PAPERS IN THE JAPANESE CANADIAN COLLECTIONS 1975）を事前に入手し、出かけたのであるが、その目録によれば、日系カナダ人のマニユスクリプツ・コレクションは約五〇の個人・団体のコレクションかならなっている。その後コレクションの数がどの程度増加したかは確認していないが、一九八六年現在で、スペシャル・コレクションが所蔵する日系関係の文書資料は、書架延長にして約一二・五メートルである。このほか図書二四〇冊、定期刊行物一一タイトル、写真八五〇点、ハミリフィルム二巻、レコード一四〇枚、テープ一三四カセット・一〇リールを所蔵している。なお、新聞のうち『大陸日報』はマイクロ化されており購入が可能である。

短時間の調査であったので、キュレーターのジョージ・ブランダーク氏と相談した結果、山家安太郎コレクションと取り組むことにした。山家安太郎が広島県出身者であることに加え、その経

表3 山家安太郎文書収集資料一覧

番号	表 題
1-1	My Footsteps in British Columbia (1958)
1-2	履歴書
1-14	第二次大戦当時ビーシー州沿岸在住日本人総移動の顛末 (1945)
1-19	配所の月 (1942-1946)
1-20	[カナダ日本人移民に関する随想]
1-22	移民日記から (1934)
2-1	開戦当時の移動及び感想
2-5	加奈陀日本人会会務報告; 加奈陀日本人会 (1934)
2-10	健康相談所記録 (1933-1941)
3-4	追わるるままに
3-11	終戦後一年日本敗戦を拒否するカナダ日本人の手紙
3-15	Tashme News
5-8	加奈陀日系市民職業調査; 加奈陀日本人会 (1924) 加奈陀在留日本人の教育; 加奈陀日本人会 (1926)
5-9	在加同胞労働、事業、農業調査 (1926)
7-2	加奈陀日本人会会務報告; 加奈陀日本人会
7-9	ヘネー日系児童会館議事録
8-1	[カナダ日本語学校関係]

※-の前の数字はボックス番号、後の数字はフォルダー番号を示す。

歴がユニークであり、かつカナダ日系社会のリーダー的存在であったこと、そして、コレクションの分量が九箱、書架延長にして約一・五メートルと大量にあり、しかも全体の目録とは別に詳細な目録が完備していたためである。選別した資料は、山家安太郎の第二次大戦前後の手記類、日本語学校関係の資料、カナダ日本人会のパンフレット等で表3のとおりである。

このほか図書と写真コレクションについては、いくつかを選別

収集することにした。写真は収容所に関するものや日系コミュニティに関するものを中心に選別した。

ワシントン大学スザロ・ライブラリー・マニユスクリプツ (MANUSCRIPTS / SUZALLO LIBRARY / UNIVERSITY OF WASHINGTON) ワシントン大学を訪れて、そのクラシックな建物の美しさに驚嘆した。建築物は統一されたアイディアのもとに設計され、その責を負う建築家の許可がないと建物を造ることができないという。

その中でもっとも広大な美しい建物が図書館になっている。その地下の片隅にマニユスクリプツがある。ここも大学図書館を兼ねた施設で、北米日本人会文書 (JAPANESE ASSOCIATION OF NORTH AMERICA = JANA) 及びタコマ日本人会文書 (JAPANESE ASSOCIATION OF TACOMA) を所蔵している。

こゝでは日系関係資料の収集のために特別のプロジェクトを組んでいる。Masuda Memorial / University of Washington Archival Project : SHORAI NO TAMENTI (マスタ記念ワシントン大学文書館プロジェクト——将来のために) が、そのプロジェクトの名称で、マニユスクリプツのほか、ミノル・マスタ財団・日系市民協会シアトル支部等が賛助している。これによりこの地域における日系関係資料の収集・保存のルートが確立されたといえよう。参考のためにプロジェクトへの協力を呼びかけたリーフレットを紹介しておく (原文は英文と日本文で同じ趣旨のことが書

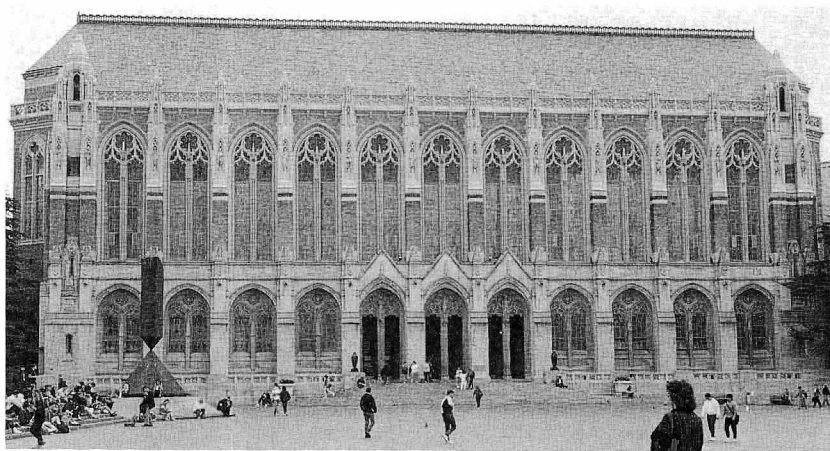


写真1 ワシントン大学 スザロ・ライブラリー

かれていますので、ここでは日本語をそのまま紹介する。なお、原文は横書き）。

目的…ワシントン大学古文書局の計画として、日系人社会の生きた歴史資料を皆様方の協力により集め、将来のために役立てようという企画です。集められた資料は大学図書館に大事に保管されます。（増田 実…ますだみのる基金を使用しての企画）

経過…この特別計画は1981年に開始されました。この種の計画は1967年から1972年までに、ワシントン大学図書館によって成された事があり、日系人会等の協力で資料が集められマイクロフィルムとして保管されています。このたびの企画も自発的に協力（参加・協力）して下さる人々によって行われています。

将来のために…日系人とその社会の歴史を記録しておくことは実に大切なことです。我々は今のところ部分的な資料ですが、日系人と日系社会などの対内、対外的な流れや関係に関するものを入手しております。しかし今だ充分とはいえず、対内、対外関係を追加・補足するために、各人の助力をお願いいたします。

手続き…この計画に関して詳しい事を知りたい方や、歴史的資料を寄贈されたい方は、必要事項を同紙の用紙に記入

して送って下さるか、又は下記の方に電話連絡をして下さるようお願いいたします。

特に入手したい資料としては、古い手紙、書類、写真、第二次大戦の資料、日系人社会の各種活動の記録、社会福祉団体に関するもの、日系商取引に関するもの等々です。

※貴方の資料で、日系人の歴史が忘れ去られることも失われる事もなくすすみます。

又貴方のご家族のどなたでも、この資料はいつでも利用できます。

又他の人が資料を利用したい時は貴方の許可（書かれた書類等）によって利用できます。

そして貴方の資料は、最適条件下で保管されていますのでご安心下さい。

※電話連絡の場合は、以下の人におねがいたします。

〔以下略〕

北米日本人会文書は、伝来事情によって三つの文書群に分かれています。最初に受け入れられた文書群(JMA ACC. NO. 1235)は、最後の北米日本人会長であった三原源治氏から一九六九年に同館に寄贈されたもので、書類と四冊のスクラップブックからなり、すでにマイクロ化されている。二番目の文書群(JMA ACC. NO. 1235-3)は、旧北米日本人会事務所で戦後も日系人の諸組織が

使用している建物

に保管されていた

もので、三原源治

氏の手を離れたの

ち二人の人物の手

を経て、一九七七

年に同館の所有に

帰することになっ

たものである。分

量はファイリン

グ・ボックス九

箱、計一八四フォ

ルダー、書架延長

約一・一メートル

である。三番目の

文書群(JMA ACC. NO. 1235-3)は、オークションで入手した古物商から別の人物の手を経て、一九八四年に同館の所有に帰することになったもので、最初の所有者は不明とされている。分量は段ボールの文書保存箱に一〇箱、計四〇〇フォルダー、書架延長約三メートルである。このように同館の所有に帰するまでの経路はそれぞれ異なっているが、資料の内容から見れば、少なくとも日

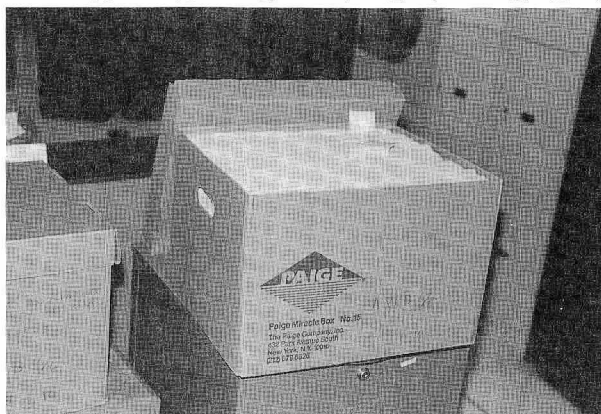


写真2 北米日本人会文書

米開戦前までは北米日本人会事務所に保管されていた文書であることは疑いない。特にJANA 1235-2とJANA 1235-3は内容的には両者を区分することにほとんど意味がなく、目録上ではむしろ両者を一体のものとして扱うべきほどのものである。

マイクロ化による資料収集は、予算との関係で全文収集を断念し、フォルダーごとに必要度のランク付けを行い、収集することにした。往復文書の類は、北米日本人会または米国西北部聯絡日本人会その他の地方日本人会や仏教会などの日本人諸団体、それに個々の日本人移民、さらには領事館との間で交信されたものであるので、現地日系社会の動向や移民の状況を知るうえで貴重な資料が数多く含まれている。センサスは日本人移民の状況を数量的に把握するには欠かせない資料である。しかも、それらの大部分は調査原票であり、様々な統計的処理が可能なのである。しかし、調査原票であるがゆえに分量が多く、経費の面ではネックとなった。分量が多いという点では会計簿も同じで、この中には組織の状態を収支面から解明するのに好適な資料も一部含まれていた。結局、往復文書の類とセンサスは悉皆的に収集する事にし、会計簿は一部の帳簿を収集するにとどめた。

なお、JANA 1235 はすでにマイクロ化されているので、フィルム・デュープで収集することにした。

タコマ日本人会文書(JAPANESE ASSOCIATION OF TACOMA ACC.

NO. 4043) は、タコマ日本人会および日本語学校が使用していた建物に放置されていたもので、一九八四年この建物を手手した人物の手を経て、一九八九年に同館の所有に帰することになったものである。一九八九年四月に搬入されてから、大まかな整理が行われ、九月に箱単位の目録（コンテナー・リスト）が作成された。筆者の二度目の訪問は一〇月初めであるから、絶妙なタイミングでこの文書に出会うことができたわけである。分量は二〇箱で、北米日本人会文書と取り組んだ後の筆者に残された時間は数時間しかなかった。そこで、本格的な収集は別の機会にしかるべき機関が行うであろうことを期待して、印刷物および国語学校の文書を中心に、目についたものを選別し、電子式複写による収集を行った。したがって、収集資料は膨大なタコマ日本人会文書のごく一部に過ぎないが、その目録は表4のとおりである。

カリフォルニア大学ロサンゼルス校リサーチ・ライブラリ・スペシャル・コレクション(SPECIAL COLLECTIONS / RESEARCH LIBRARY / U.C.L.A.) U.C.L.A.のキャンパスは開放的なファッションであふれていた。教官でも背広を着た人は少なく、体が貧弱で血色の悪い筆者のような者が背広を着て歩いていると相当目立つ（自意識過剰かもしれないが）。ただ、キャンパスの中はロサンゼルスにあっては別天地ともいえるほど治安がよい。目やすペシャル・コレクションは、やはりリサーチ・ライブラ

表4 タマコ日本人会文書収集資料一覧

資料名	作成者	作成年	形態・数量
オレゴン州日本人会会計報告 (大正3年6月1日～4年5月31日)	オレゴン州日本人会	1915. 6. 7	ガリ1頁
インランドエムパイア日本人会々務報告書 (大正4年度前半期)	インランドエムパイア日本人会	1915. 7. 30	刊6頁
会務報告書(大正4年9月～5年2月)・ 会計報告書(大正5年度)	北米聯絡日本人会		刊29頁
大正五年度前半期タコマ日本人会会計報告 (大正5年2月1日～7月31日)	タコマ日本人会	1915. 8. 5	ガリ2頁
在米日本人会大正七年度定期代表者会議事録	在米日本人会	1918. 1	刊42頁
ヤキマ日本人会会務報告書 (大正6年1月28日～同7年1月27日)	ヤキマ日本人会	1918. 2	刊6頁
会務報告書(大正7年1月1日～7月31日) 会務報告書(大正7年度)	北米聯絡日本人会		刊32頁
会務報告書(大正10年1月～6月)(付録:華州新 土地法実施停止試訴、建碑事業報告)	北米日本人会		刊32頁
会務報告書(大正10年7月～12月)	北米日本人会		刊42頁
会務及会計報告(大正11年8月～12年2月)	米国西北部聯絡日本人会		刊66頁
北米日本人会議事法原案	北米日本人会		刊大1頁
北米日本人会議事法	北米日本人会		刊大1頁
北米日本人会々則	北米日本人会	1915. 3	刊13頁
タコマ日本人会々則	タコマ日本人会	1915. 8	刊10頁
北米聯絡日本人会々則(1918年9月28日改正)	北米聯絡日本人会		刊大1頁
北米日本人会々則(大正8年8月修正追加)	北米日本人会		刊大1頁
米国西北部聯絡日本人会々則(1920年9月改正)	米国西北部聯絡日本人会		刊1頁
北米日本人会月報(第3号)	北米日本人会	1924. 1. 13	刊4頁
北米日本人会月報(第8号)	北米日本人会	1924. 6. 15	刊4頁
北米日本人会月報(第9号)	北米日本人会	1924. 7. 15	刊4頁
戦勝公債之内容	北米聯絡日本人会		ガリ1頁
[加州における土地問題に関する] 報告	添田壽一・神谷忠雄	1913. 8. 30	刊15頁
[タコマ港をピューゼットサウンド線の第一寄港 地及終点地とするよう] 請願書(大正4年4月10日)	タコマ日本人会・央州日 本人会		刊10頁

資料名	作成者	作成年	形態・数量
領事館転任者への記念品贈呈費分担金送付依頼状	北米聯絡日本人会→タコマ日本人会	1919. 4. 15	ガリ1頁
酒類の密造・販売等不正行為の撲滅につき警告	北米聯絡日本人会	1919. 6.	刊1頁
酒類密造・販売者への警告文送付状	北米聯絡日本人会→タコマ日本人会	1919. 6. 3	ガリ1頁
写真結婚廃止に関する在米日本人会の決議に対する反対決議	タコマ日本人会→北米聯絡日本人会	1919. 11. 8	2頁
米国連合日本人会東京支部経過報告 [田駒日本人会「大正十年度重要書類」]	米国連合日本人会東京支部→米国西北部聯絡日本人会	1921. 5	ガリ9頁
華州新土地法実施停止訴訟に関する報告 [田駒日本人会「大正十年度重要書類」]	米国西北部聯絡日本人会実行部	1921. 6. 27	刊大1頁
華州土地法試訴経過報告 [田駒日本人会「大正十年度重要書類」]	米国西北部聯絡日本人会	1921. 12. 17	ガリ4頁
阿片密輸事件連累者に関し依頼 [田駒日本人会「大正十年度重要書類」]	北米日本人会→タコマ日本人会	1921. 12. 20	1頁
加州土地法試訴と歩合耕作契約に関する判決 [田駒日本人会「大正十年度重要書類」]	米国西北部聯絡日本人会	1921. 12. 22	ガリ3頁
貯金窃盗者探索依頼（被害者広島県人） [田駒日本人会「大正十年度重要書類」]	サクラメントバーレー日本人会	1921. 12. 24	ガリ1頁
領事館証明手数料不納通知への回答状 [田駒日本人会「大正十年度重要書類」]	丹羽十三→山崎	1921. 12. 25	1頁
海外協会中央会結成の報告と相互協力の要請	海外協会中央会→日本人会会長	1923. 7. 10	刊1頁
米国西北部連絡日本人会実行部委員会開催通知	米国西北部聯絡日本人会→山崎正人	1928. 5. 12	1頁
御大典の際献上する記念品の選択委員会開催通知	米国西北部聯絡日本人会→記念品選択委員山崎正人	1928. 5. 21	1頁
羅府日本人会人口調査統計表（大正7年度） 羅府日本人会管轄地図	羅府日本人会	1918.	刊大2頁
国勢調査（大正9年10月1日現在）	タコマ日本人会		30枚1綴
排斥の原因——『時局研究会の報告』	北米日本人会	1913. 10	刊17頁
出征義勇兵情報（第1号） （大正5年12月7日～同年6月1日）	加奈陀日本人出征義勇兵後援会	1917. 2. 1	刊1頁
出征義勇兵情報（第二号） （大正6年2月1日～同年4月15日）	加奈陀日本人出征義勇兵後援会		刊大1頁

資料名	作成者	作成年	形態・数量
7月1日より実施されたる新移民法と注意事項	在沙港日本領事館	1924.	刊32頁
国校雑誌（1号）	タコマ国語学校	1925. 7	ガリ 20頁
国校雑誌（2号 校舎増築号）	タコマ国語学校	1925. 9	ガリ 20頁
国校雑誌（3号）	タコマ国語学校	1925. 11	ガリ 26頁
タコマ富士（第1号）		1931. 3	14頁
タコマ富士（第2号）		1931. 5	13頁
タコマ富士（第2号）		1931.	13頁
生徒の綴方 題：日本の軍艦	タコマ国語学校	1933. 4. 1	ガリ 27頁
新仮名遣及び略字採用趣意書 [1部コピー漏れ]			ガリ 1頁
低学年仕附方の研究	タコマ国語学校	1931. 11	ガリ 9頁
第九回教師懇談会記録			11頁
昭和三年三月十一日開催教師懇談会宿題研究		1928. 3. 11	5頁
卒業並に修業証書授与式挙行・学芸会開催の通知	タコマ国語学校→各位	1928. 5. 16	ガリ 1頁
国語学校への寄付者につき発表依頼	タコマ国語学校		1頁
タコマ国語学校新築寄付依頼のチラシ	タコマ国語学校維持会々長他	1918. 1	刊1大頁
タコマ国語学校学芸会寄付御礼	タコマ国語学校→各位	1928. 2. 3	刊2頁
第十一回教育懇談会および維持会代表者会開催通知	米国西北部聯絡日本人会→タコマ国語学校・同維持会	1928. 3. 6	2頁
各国語学校維持会代表者会開催通知 付協議事項	米国西北部聯絡日本人会→タコマ国語学校維持会	1928. 5. 21	2頁
反響（第1巻第2号）	同志会（タコマ市）	1918. 9. 25	刊12頁
タコマ週報（第322号）	タコマ週報社	1940. 12. 12	刊10頁

※刊は活版印刷、ガリは謄写印刷を示す。

広島県移住史海外調査報告（安藤）

リーの地下にあった。ただ、UWのそれよりは何倍も広い。こゝは日系人関係資料のコレクションとしては全米一の規模を誇る。その中心はJARPコレクション（JAPANESE AMERICAN RESEARCH PROJECT COLLECTION）で、一九六二年から始められた日系アメリカ人研究プロジェクトを進めるなかで収集されたものである。同コレクションの目録はユージ・イチオカ氏等により刊行されてゐる（A BURIED PAST: AN ANNOTATED BIBLIOGRAPHY OF THE JAPANESE AMERICAN RESEARCH PROJECT COLLECTION / UNIVERSITY OF CALIFORNIA PRESS 1974）。この目録は、図書については一冊ごとに、文書については文書群ごとに数行の解題が付されている。ただし、文書の多くは文書群名・年代・分量・解題が記述されているだけの大雑把なものである。第一回目に筆者が訪れたとき、目録の著者の一人阪田安雄氏がより詳細な目録の発行を準備していた。

JARPコレクションには大量の図書が含まれている。また、日本人会や各種日系団体の文書や個人文書も膨大な量を誇っている。目録によれば個人文書（文書群数五五）だけをとっても一一九箱・四〇フォルダー、それに定型外のもの六四点となる。日本人会文書は、北米日本人会文書はど各種の資料が系統的に残っていない、断片的ではあるが、一九の日本人会組織の文書が所蔵されている。議事録・業務日誌（記録）・会計簿・会員名簿等大型の

ノートに記入する形式で作成されたものが多く、往復文書等はありません。このほか邦字紙も多数所蔵している。一部は日本の業者により、マイクロ化され販売されている。県立文書館では、このフィルムの一部を購入したさいに『桜府日報』・『山東時事』・『コロラド新聞』・『馬哇新聞』の原紙を譲り受けている。

選別収集した文書は表5のとおりで、日本人会の往復文書のはか業務日誌・議事録のうち比較的系統的に残されているもの、個人文書では広島県出身で顕著な活動をした人物のもの、刊行物では、広島県海外協会発行の『大広島県』や南加広島県人会発行の『芸備人』等広島県にゆかりのもの、日本人会等が発行したパンフレット、古い時期の年鑑類を中心に収集した。広島県で発行された雑誌をわざわざ米国で収集してくるなど情けない話ではあるが、今のところ県内では見つかっておらず、外務省外交史料館の文書の中に、『大広島県』の前身である『広島県内外時報』が数号存在することが確認されているにすぎない。

その他の資料所蔵機関 サンフランシスコの北加日本文化コミュニティ・センター（JAPANESE CULTURAL & COMMUNITY CENTER OF NORTHERN CALIFORNIA）には加州東銀日米資料室（CBB-JAPANESE AMERICAN HISTORY ROOM）があり、日系関係の図書（和書・洋書）を多数所蔵している。また、サンフランシスコで

表5 カリフォルニア大学ロスアンゼルス校リサーチ・ライブラリー・
スペシャル・コレクションからの収集資料一覧

ボックス番号	フォルダー番号	表 題
日本人会文書		
229		南加中央日本人会日誌 2冊
229		南加中央日本人会議事録
237 - 238		羅府日本人会記録 4冊
246		西部愛他保州日本人会記録 他の日本人より受領した信書
247		西部愛他保州日本人会記録 在ポートランド帝国領事館より西部愛他保州日本人会 に通達の書類 2冊
# 6656		河下日本人会記録 1リール（デュープ）
個人文書		
145	1 - 11	Toyota Family Papers （豊田静太郎・カメ夫妻の文書、兩人とも広島県出身、 ネバダ州で労務周旋業に従事）
146	3	Toyota Family Papers
147		Yasui Family Papers Diaries（日記）1910 - 1934 （安井里助；広島県出身、ハワイで新聞記者・国語学校 教師・1920年よりマウイ新聞経営者）
149	1,2,6,	Yasui Family Papers
150	2,3,6	Yasui Family Papers
152		Yoneda Papers （カール米田；広島県出身、労働運動家）

ボックス番号	フォルダー番号	表 題
刊行物		
228		7月1日より実施されたる新移民法と注意事項 (在沙港日本領事館)
263		西部愛他保日本人会々報 第7号
263		西部愛他保日本人会々報 号数不明
263		出生届及国籍離脱の契 (在米日本人会)
263		在米日本人会会務報告及定期臨時代表者会議事録 (在米日本人会)
362	2	第二世と国籍問題・第二世叢書第三輯 (日本米布協会)
362	2	第二世と日本の学校・第二世叢書第六輯 (日本米布協会)
362	2	日本留学の新しき方法・第二世叢書第九輯 (日本米布協会)
362	5	大広島県 (創刊第十五周年) 昭和5年3月
362	6	広島県滞在米布出世者名簿 (大広島県臨時号、昭和7年9月)
362	7	財団法人海外教育協会要覧 (内藤啓三)
362	9	紀元二千六百年奉祝海外同胞大会の全貌 (紀元二千六百年海外同胞大会本部)
357		芸備人 第162号 1928.1
358		日米年鑑 1908, 1910～1918 (日米新聞社)
358		南加日本人年鑑 1号 1917 - 1918
358		羅府年鑑6号
359		羅府年鑑1号
360		会員名簿; 広島県人会 (シアトル) 1960
360		中北加広島県人会聯名協会会員名簿 1935 (中北加広島県人会聯盟協会)
360		南加広島県人住所録 (南加広島県人会) 1963

発行されていた邦字紙『新世界新聞』の原本もある（マイクロフィルムは国内で入手可能）。所長の岡省三氏のご好意で複数部ある図書を寄贈していただき、若干の図書についてコピーをしていただいた。なお、同室は昨年一二月閉鎖されたという。同じサンフランシスコの日系研究図書館（JAPANESE AMERICAN LIBRARY）は、洋書を中心とする図書を所蔵するほか、第二時世界大戦中の日本人収容問題に関する公聴会資料を取り扱うことになっている。筆者が訪問したときは箱積みされたままうずたかく積み上げられており、閲覧はできなかったが、整理され利用できるようになれば、日系人研究の貴重な資料となるであろう。

ハワイ大学図書館（LIBRARY / UNIVERSITY OF HAWAII AT MANA）では屍山コレクションを閲覧した。作家の故屍山季之氏が同館に寄贈したもので、朝鮮・「満州」に関するものと南米を含む移民関係図書が中心である。ビショップ博物館（BISHOP MUSEUM）には移民関係の写真のほか個人文書が多数保存されている。個人文書では小林旅館文書のほかいくつかを閲覧した。小林旅館は広島県出身者の経営する旅館で、同文書には、同旅館を経由して日本とハワイを往復した移民（その大部分は広島県人）の到着者名簿及び出国者名簿がある。特に出国者名簿には渡航年月日が記されており、出稼ぎ移民のハワイ滞在年数をサンプルのに知ることができる。ハワイ州立文書館（HAWAII STATE

ARCHIVES）では一九〇〇年（米国との合併）以前の移民関係公文書があり、また写真もビショップ博物館同様多数所蔵されている。以上のホノルルにある機関からの資料収集については、渡辺礼三氏（広島県移住史執筆者・前ハワイ報知編集長）に依頼をしている。

ハワイ島日本人移民資料館（HAWAII SHIMA JAPANESE IMMIGRANT MUSEUM）には多数の日本語図書が陳列してあったが、大部分は移民が日本から持ち込んだもので、ハワイ移民の手で出版されたものはそれほど多くはないという印象を受けた。展示している資料以外に貴重な資料があるとの情報もあったが、コピーを許可しないとのこと、資料収集は断念せざるをえなかった。ライマン博物館（LYMAN MUSEUM）は文献資料としては日本語教科書が数点あるだけで、収集対象になる資料はなかった。

三 外国の文書館を訪れて

今回の海外調査では文書館ないしは文書館類似施設を訪れる機会が多かった。文書館の職員である筆者は、外国の文書館の状況がどのようなものであるか大いに関心があったが、調査の目的が移住史資料の収集であったので、この方面のことには時間を割くことはできなかった。ここでは利用者として訪れ、目にふれたかぎりの事柄について紹介することにする。といっても筆者の経験

は、英語圏の地域にある文書館において日本語で書かれた文書を利用したという特殊な経験であるので、必ずしも普遍化できない面もある。

UBC・UW・UCLAの三大学いずれにも図書館の中に特殊資料を扱う部門が置かれており、いずれも大学図書館を兼ねている。各機関の長の肩書きは、UBCがキュレーター（男性）、UWがマニスクリップツ・ライブラリアン（女性）、UCLAが女性で肩書きは不明（恐らくライブラリアン）、ハワイ州立文書館はステートアーキヴィスト（女性）。この部門の職場には女性の進出が著しい。本来のアーカイヴズでなく、大学図書館の下部組織ということもあって、ライブラリアンとアーキヴィストの区分は明確でない。しかし、肩書きはどうであれ、文書資料を文書館学的に取り扱っていることは、いずれの機関でも共通していた。職員の数は、UWは極端に少なく、長を含め三人（いずれも女性）で忙しく仕事をこなしていたが、他の機関は一〇人内外はいるような感じであった。当然のことながら、（少なくとも）日系関係資料の整理は、外部の専門家や学生などの協力を得ているようである。それでも、UWの一番若い女性職員が、北米日本人会文書の閲覧を請求した筆者に、センサスその他の重要資料を熱っぽく推奨してくれたのには驚いた。自分では読めない資料でも、英文の目録にもとずいて利用者にサジェスチョンするのであ

る。

閲覧室は広くはないが（UWの施設は規模の大きな大学にしては、貧弱であった）、利用者がそれほどいなかったので窮屈な思いはしなかった。UCLAの場合は、四人掛けのテーブル六つが置かれ、学生アルバイトとおぼしき監視員が一段高いところに座って、出入り口の自動ドアの開閉を管理し、あわせて閲覧者が資料を適正に取り扱っているかを監視し、不都合があれば、注意をしたりしていた。筆者自身も二つのフォルダーを同時に扱っているかのごとく誤解されて注意を受けた。当然のこととは言え、職員は資料を保護するための閲覧規則を遵守させることに注意を払っており、UWでは筆者がシャープペンシルを使用していたら注意を受けた（ボールペンではないということで使用を許可してもらったが、鉛筆が望ましいことは当然なので、その後は備え付けの鉛筆を使用するようにした）。

文書の収納は通常、フォルダーおよびボックス（一ボックスに数フォルダーないし数十フォルダーを収納）で行なわれている。

ここでいうフォルダーとは、日本でもファイリング・システムが導入されたオフィス等で使用されている、厚紙を三つ折にしたものである。文書はこのフォルダーに挟み込んであるだけである。文書群に含まれる図書もフォルダーに収納されている。UCLAの場合、文書群に位置付けられない単独の図書すらフォルダーで保管

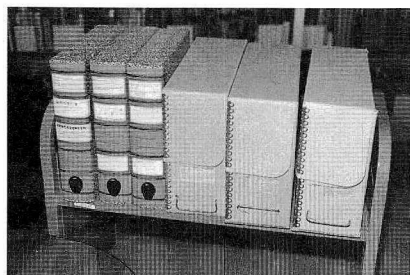


写真4 JARPコレクション

右側3つのボックスが、文書を収納する箱としてもっとも一般的。

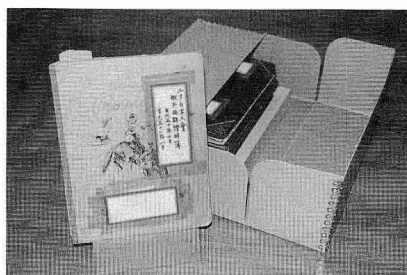


写真3 JARPコレクション

されている。単独の圖書をこのような形で保管するのはいかにも不合理に思われたが、おそらく保管のスタイルを統一するためであろう。それはともかく、フォルダーによる保管方式は、古文書を一点一点封筒に納めているわが文書館のやり方からみると（古文書は紙の質からみて、こうする以外に方法がないとは思うが）、整理する側からみても、閲覧する側からみても簡便ではある。筆者が短時間で大量の文書を取り扱うことができたのもこのおかげである。しか

しながら、文書の順番がくるったり、別のフォルダーに紛れ込んだりしたら、とりかえしがつかないことになる。そのため、一度に二つ以上のフォルダーを処理することは厳禁されている。

目録作成は一回かぎりのものでなく、簡略なものから詳細なものへ時間と経費や必要度に応じて作成されるべきものであるといわれている。この考え方の実際の適用を各機関で見聞してきた。U B C の日系コレクションの総合目録は簡略なものであるが、そのコレクションの一部をなす山家安太郎文書の目録は詳細に作られている。U W の北米日本人会文書の目録に対し、タコマ日本人会文書のそれは、文書がごく最近、館の所蔵に帰した事情もあって、きわめて大雑把なものである。J A R P コレクションの詳細な目録は近日完成する。こうした目録作成方針（公開方針）のおかげで筆者はタコマ日本人会文書を閲覧することができたのである。

つぎに目録の内容について、北米日本人会文書を例に紹介しておこう。JANA 1235-2 および JANA 1235-3については、詳細な資料の目録が作成されている。参考のために、その内容を紹介しますと、JANA 1235-3 の目録では、まず最初の五頁が資料解題（GUIDE）に当てられている。資料解題の冒頭で概観的な説明がなされ、この文書が北米日本人会（JANA）および米国西北部聯絡日本人会（NORTHWEST AMERICAN JAPANESE ASSOCIATION = NAJA）の文書



写真5 北米日本人会事務所における各地日本人会代表者の記念撮影
（シアトル岩村勝蔵氏蔵）

であること、ついで両組織についての簡単な説明がなされ（北米日本人会はシアトルの組織、米国西北部聯絡日本人会はワシントン州・アラスカ州及びアイダホ州とモンタナ州の一部の地域の日本人会を統合した組織）、北米日本人会が後にシアトル日本人商業会議所と合併してシアトル日本人商業会議所（SEATTLE JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE AND JAPANESE ASSOCIATION OF NORTH AMERICA = S&J）となること等について記述している。ついで、整理に関する注解（NOTE ON ARRANGEMENT）がなされている。北米日本人会・シアトル日本人商業会議所両組織については文書を区分するのは適当でないので、単一のサブ・グループとして扱い、米国西北部聯絡日本人会については、前者と同一の事務所に所在した時期もあり、文書も前者のものと混ざっていたりして、区分することに若干の困難をともなったが、別のサブ・グループとした。後者の文書は、主として地方日本人会との通信文および日系人に関する統計調査からなる。文書の大部分は日本語で書かれており、閲覧者は文書の順番を狂わせないよう特別の注意を払わなければならない。以上がその主な内容である。次に、文書の出所（PROVENANCE）があきらかにされ、最後に組織の歴史について簡明な叙

述がなされている。以上が資料解題の概要であるが、利用者に必要最小限の情報がここに盛り込まれているといつてよい。

目録は一八頁からなる。シアトル日本人会商業会議所（北米日本人会時代の文書を含む）と米国西北部聯絡日本人会に二大区分したうえで、前者についてはさらに細かく組織ごとに区分している。組織の階層構造に照応した文書の階層構造を明示しようとしているのである。そこから先の区分は、主題とか業務内容によるのではなく、つぎのように主として文書の形態によって区分している。組織(ORGANIZATION)・来翰(INCOMING LETTERS)・発翰(OUTGOING LETTERS)・覚書(MEMORANDA)・業務日誌(OFFICE DIARY)・会計簿(FINANCIAL RECORDS)・報告書(REPORTS)・協議会年次総会(CONFERENCES AND CONVENTIONS)・名簿(LISTS)・刊行物(PUBLICATIONS)・法令(LEGISLATION)・証明書(CERTIFICATES)・地図(MAPS)・写真(PHOTOGRAPHS)・切り抜き(CLIPPINGS)等が主な項目である。なお、上記の項目と並列して、いくまれにはあるが、主題による項目(SUBJECT SERIES)も掲げられている。たとえば、二重国籍問題(DOUBLE NATIONALITY PROBLEM)・オザワタカオ帰化訴訟(TAKAO OZAWA NATURALIZATION SUIT) というように。こうした区分に加え、必要におうじてさらに細かな区分がなされていたり、内容の説明が加えられていたりする。来翰の場合には、発信者のABC順に配列され、主な発

信者名が記されているし、発翰の場合には、年代順に配列され、分量が多く複数以上のフォルダーにわたる場合には、フォルダーごとに年代が記されている。最後に、以上の例示として、目録の一部を抄録しておく（中は中略を示す）。

（あんどうふくへい 研究員）

JAPANESE ASSOCIATION OF NORTH AMERICA

Accession No. 1235-3

INVENTORY

<u>Box/Fldr</u>		<u>Dates</u>
<u>Part I</u>		
<u>SEATTLE JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE AND JAPANESE ASSOCIATION OF NORTH AMERICA (S & J)</u>		
1/1-1/2	HISTORICAL/ORGANIZATIONAL FEATURES	1912-39, n. d.
	INCOMING LETTERS	
1/3	American Legions	1925-38
1/4	A	1928-38, n. d.
1/5	Bukkyo-kai [仏教会] - Buddhist Churches	1934-38, n. d.
	B	1933-41
}		
1/34	W - Z	1927-41
1/35	Miscellany (or unreadable)	1930-41
}		
	OUTGOING LETTERS	
1/39	1925	
}		
1/54	1941	
}		
1/62-1/69	MEMORANDA	1923-39
1/70-2/6	FINANCIAL RECORDS	1906-41
OVERSIZE10	FINANCIAL RECORDS	1939-56
	REPORTS	
2/7	Reports of the Seattle Japanese Chamber of Commerce and Japanese Association of North America	1932-41
2/8	Draft of above	1939
2/9	Miscellany	1925-41, n. d.
}		

広島県移住史海外調査報告 (安藤)

Subgroups

S & J. COMMERCIAL AND INDUSTRIAL DIVISION

INCOMING LETTERS

3/9 A - B 1931-40, n. d.

}

S & J. EDUCATIONAL DIVISION

4-1 MINUTES 1939-40

4/2-4/3 MEMORANDA 1939-40

4/4-4/5 FINANCIAL RECORDS 1925-40

S & J. FINANCIAL DIVISION

4/6 INCOMING LETTERS 1940-41

}

Part II

NORTHWEST AMERICAN JAPANESE ASSOCIATION (NAJA)

4/75 HISTORICAL/ORGANIZATIONAL FEATURES 1916-31

}

CENSUS SUMMARIES: all compiled by NAJA (or United North American Japanese Association of Seattle) except indicated otherwise

5/18 Japanese National Census(first) for Seattle Japanese 1920

Consulate's Precinct [在シトル帝国領事館管内第一回国勢調査統計表]

5/19 Births and Deaths of the Japanese in Seattle Japanese 1922

Consulate's Precinct by Year between 1910 and 1921

[自1910年至1921年在シトル帝国領事館管内在留日本人出生死亡年別統計表]

}

CENSUS REPORTS - reported to NAJA (or the United North American Japanese Association of Seattle)

5/32 Conditions of Industry by Employer and Category of 1916

Industry [事業状態調査報告書], reported by local

Japanese Associations: Auburn, Bellevue, Bellingham, Fife, Inland Empire, Pasco, Tacoma, Thomas, Vashon, White River, and Yakima.

}